

特集

対談：音楽にもバリアフリーを。～「太陽」と「音楽」と「ひまわり」と～

2017青葉こども音楽まつりでは、初の試みとして3／4(土)に「招待公演」を設け、団員関係者の他、障がいのある子どもたちも招いてコンサートを行うことになりました。それに先立ち、ご招待した団体の一つである『プチひまわり』と横浜緑吹奏楽団の代表者で子どもと音楽について対談を行いました♪



プチひまわり

内山佳代・楠木いずみ・尾形めぐみ・大岳佳子・打浪晴子

横浜緑吹奏楽団

横山郁子・今井雅之・倉崎康浩・井上ゆかり

井上) お忙しい中、青葉こども音楽まつり開催に先立ち、両団体の代表にお集まりいただきありがとうございます。本日は対談形式にて子どもと音楽についてお話を伺います。まず初めに、プチひまわりさんの成り立ちや活動についてお聞きします。

内山) 私たちは青葉区・緑区・都筑区を中心にダウン症をはじめ、障がいの子を持つ家族の集まりです。月に2度、勉強会やリトリート等をしています。子どもたちの幸せに結びつく、たくさんの出会いや情報収集の場になればと思い活動しています。このサークル活動でのたくさんの人や情報との出会いは、不安を抱えながら子育てをするママ達のよりどころとなり、子どもたちの明るい笑顔と健やかな成長を皆で共有できる場となっています。現在、活動13年目を迎え40以上の家族で構成しています。

井上) ありがとうございます。同じく青葉区、緑区を活動の拠点としている緑吹との出会いや今回の招待公演に至るまでの経緯をお話いただけますか？

尾形) 今から3年くらい前、ちょうどプチひまわりが結成10周年の時に、サークルメンバーが小学校にあった緑吹のチラシを見て、子どもたちに生の演奏を聴かせたいとおもい、声をかけさせていただきました。

横山) 過去2回は地区センターの体育館で演奏会を行いました。奏者と客席が近いから楽器に触れたり踊ったりと楽しい演奏会になりました。今回はぜひホールで音楽を体感してほしいと思い、招待公演を企画しました。

井上) 奏者も子どもたちもノリノリでとても楽しい演奏会でしたよね。今回の公演は「親子そろってコンサートデビュー」と題していますがどのような内容なのでしょうか？

倉崎) 公演は一部、二部の構成となっています。一部の目玉は指揮者体験ですね。子どもの自由な指揮に緑吹メンバーが翻弄される姿を楽しんでいただけたらと思います。二部は動物がテーマです。その中でもディズニー映画『ズートピア』の主題歌である「トライ・エブリシング」の歌詞が子どもへの応援歌*だと思い、選曲しました。挑戦する気持ちを大切にしてほしい、夢に向かって進んでほしい、という思いを感じて頂けたら嬉しいです。

*プログラムの中に応援メッセージが入っています。7つあるよ。さがしてみてね。



井上) さて、音楽はとても身近で日常の中にいつも存在しています。子どもたちは音楽を聞くと、どんな反応を示しますか？

尾形) うちの子は難聴があるのですが、吹奏楽のサウンドは心地よく聴こえるみたいで、補聴器をつけるのが苦手だったのに、吹奏楽を聞くときは付けられるようになりました。

内山) うちの娘は自分が知っている曲にとても反応が良いです。うれしそうに歌ったり体を動かしたり…

打浪) 昨年、演奏会に参加させていただいた時、普段シャイな娘が演奏に合わせてノリノリで人前で踊っている姿に驚きと喜びを感じました。音楽は普段コミュニケーションを苦手とする娘にとって他の人たちと一緒にになって楽しめる最

高のコミュニケーション手段なのかなと感じました。

横山) 体で表現することもコミュニケーションの1つですよね。

倉崎) 演奏中は子どもの反応ひとつひとつに感動します。立って踊ったり、一緒に歌ったり、体全部で音楽の世界を感じてください！

楠木) 子どもが音楽を体で楽しんでいる姿を見ると、私自身もとてもうれしくなります。

今井) 皆さん、食べるものの（口から入れるもの）、見るものの（目から入るもの）に対しては気をつかいますよね。でも耳から入るもの（音楽やお話）には意外と無頓着なのです。子どもにとってはどれも同じで、耳に入れる情報も大切にていきたいと心がけながら演奏しています。



井上) ところで、障がいのある子どもを取り巻く環境について率直に感じることはありますか？

楠木) 私たち家族が外出する際、どうしても周りの目を気にせざるを得ない場面も度々あります。確かに私たちを取り巻く環境は少しずつ改善されています。私たち親も、時間の経過とともにその環境に慣れてきました。しかしながら差別はなくならないというのが実感です。

尾形) 学生の間までの環境は整いつつあるようなのですが、就労する年になったら…と考えると不安ですね。親の加護がなくても自立できるようになるのかな…と。

井上) まだまだ課題があるわけですね。そんな中、プチひまわりさんが今回の演奏会に期待することはありますか？

内山) ホールでの音楽会となると、なかなかハードルが高く感じられるものです。うるさくしゃうかな、迷惑をかけしゃうかな、途中退座できるかな、とか。そんな中、今回の音楽会はそのハードルを下げるきっかけになります。経験の第一歩として親が踏み出す手助けになるので、ぜひ広い心で見守っていただけたらと思います。

打浪) ハンデを持っていると何か活動に参加す



る際まず受け入れてもらえるか？ということから始まります。この音楽まつりのように、この子たちの体験の機会が増えてくれるのは本当にありがたいと感じています。今回の演奏会は子どもも親もリラックスして楽しめる機会となるのでは、と楽しみにしています。

楠木) 子どもが迷惑をかけることが不安で出かけることを戸惑うことが多いものです。特に小さな子どもをもつ親が不安に感じています。それは初めての出来事への子どもの行動や反応に不安があるからです。この演奏会を経験することで、子どもの反応を知るきっかけにもなるとてもよい機会を与えて頂けたと思います。

内山) “プチひまわり”として団体で参加できることの安心感もありますね。いつものメンバーやママたちと一緒にいることで予期せぬことにもうまく対応できそうです。

大岳) ホールという特別感もまたいいですね。親も音楽鑑賞のマナーを学べそう！

今井) 音楽は太陽の光と同じだと思います。誰にでも平等に降りそそぐでしょう。そして、ひまわりはその光（音）を体いっぱいに受けとめる。「太陽」と「音楽」と「ひまわり」。この三者に通底するものを感じてなりません。

倉崎) この演奏会が子どもたちへの最高の音のプレゼントになるよう緑吹メンバーも残り少ない練習を一生懸命頑張りましょう！！当日の演奏、楽しんでくださいね。

井上) プチひまわりのママさんたちは皆、おおらかで温かく包み込むような印象でした。このママたちに見守られて育ったお子さんたちは幸せだろうなと感じた対談でした。楽しい演奏会になるように実行委員を中心に緑吹メンバー全員で当日に向けて日々頑張ります！

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。

